

2017年度 スーパーグローバルハイスクール(SGH)全国高校生フォーラム

11月25日(土)10:00-17:00 パシフィコ横浜



1 当日のプログラム(概要)

午前は、文科省、筑波大学、神奈川県教育長の挨拶、京都大学教授 河合江里子氏による基調講演
 午後は、前半:SGH指定校生徒によるポスターセッション(使用言語は英語)、後半:ディスカッションと表彰式

2 ポスターセッション(133校)の中で目を引いたものベスト10(北から順に)



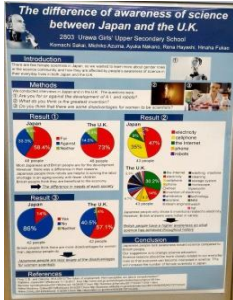
福島県立ふたば未来学園高校

テーマは、「原子力災害からの復興を果たすための探究活動」。この学校は、ある意味で世界の「課題先進地域」となっている双葉郡に2年前開校。2年次にドイツやアメリカなど海外研修で学んできたことを丁寧に発表。



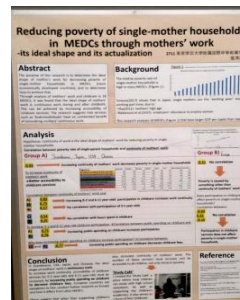
埼玉県立不動岡高校

テーマは、「東京オリンピック・パラリンピックにおける危機管理と課題」。過去のオリンピック開催中に起きたテロ事件の事例を振り返りながら危機管理について考察し、近年頻発している国際テロ事件とも関連させて発表。



埼玉県立浦和第一女子高校

テーマは、「イギリス人と日本人の科学に対する意識の違い」。イギリス人が科学に対する意識が高い理由を2つ挙げそれらについて考察。さらに日本における女性科学者が抱える課題を明らかにし、理科教育の在り方を変えるよう提言。



東京学芸大学附属国際中等教育学校

テーマは、「先進国の母子家庭貧困率減少に向けて」。前日、この学校の授業研究会で訪れた際に、日本語でのポスターを目にした研究。発展途上国の貧困率はよく取り上げられるが、先進国の女性の雇用形態に発展させた視点は斬新。



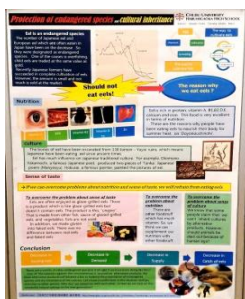
神奈川県立横浜国際高校

テーマは、「SGH海外スタディツアーでの学びと提言」。SGHⅢ期目となりこれまでベトナム、カンボジア、ボルネオを訪問。それらの事前・事後指導で学んだことをさらに深く研究し、提言を行った。SGH初年度からの採択ならではの発表。



富山県立高岡高校

テーマは、「海を守ろう～海洋環境問題への意識を高める取組～」。世界的な海洋環境問題の一つ、マイクロプラスチックの危険性について研究し、清掃活動という具体的行動を起こすことで啓発活動を広めようという発表。



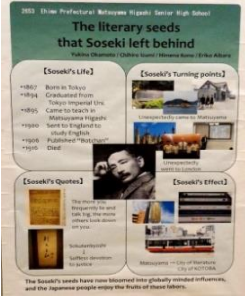
中部大学春日丘高校

テーマは、「絶滅危惧種の保護と文化の継承」。日本人の多くが食しているが、人為的な要因で絶滅の危機に瀕しているウナギ。そこでウナギの味を再現した代替商品を普及させウナギの消費量を減らすことを提案。生物学的にも興味深い。



広島女学院中学高等学校

テーマは、「平和構築・核軍縮についての学びと実践」。この学校は昨年度、評価委員会から最優秀に選ばれた学校の一つ。課題研究でアメリカ人教授から英語で学んだことをもとに発表。ポスターに折り鶴をあしらうなど女性らしさあり。



愛媛県立松山東高校

テーマは、「漱石が残したもの」。今年は、夏目漱石の生誕150年にあたる。この学校で教鞭を執った漱石の、松山での足跡をたどる。彼が残した言葉が人々にどんな影響を与えたのか考察。ただ、SGHの取組として相応しいかやや疑問。



宮崎県立宮崎大宮高校

テーマは、「Global TAKUAN Project」。題からするとふざけた研究に思えるが、内容は真面目。ベトナムへの県産品タクアン輸出を積極的に支援するため、味覚センサーにより現地の調味料の特徴を科学的に分析し海外向けの調味料を開発。